

2024 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|----------|-------------|--------|-----------|---------------|
| 学 科 | 鍼灸スポーツ学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 生理学Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 2校舎501教室 |
| 担 当 教 員 | 鈴木 次郎 | 実務経験とその関連資格 | | | |

《授業科目における学習内容》

からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱ(動物生理学)では、神経の仕組みと、筋収縮の仕組み、運動を概説できる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験 100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

東洋療法学校協会編:生理学 第3版
プリント

《授業外における学習方法》

生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。

《履修に当たっての留意点》

生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる科目である

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------------|-------------|---|-------------|-------------------|
| 第1回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | オリエンテーション 解剖学的な神経細胞の構造と体性神経・自律神経の違いを概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の目次を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 神経の構造と種類① | | |
| 第2回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 静止膜電位の状態を理解し、活動電位による電解質の移動を概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 静止膜電位と活動電位 | | |
| 第3回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 伝導の3つ原則、跳躍伝導を概説できる。神経線維の種類を覚え概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 興奮の伝導、跳躍伝導、神経線維の分類 | | |
| 第4回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | シナプス伝達の特徴を理解する(伝導と伝達の違いを理解する)。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | シナプスの伝達、興奮性シナプス、抑制性シナプス 可塑性 | | |
| 第5回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | シナプス伝達の特徴を理解する(伝導と伝達の違いを理解する)。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | シナプスの伝達、興奮性シナプス、抑制性シナプス 可塑性 | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
|-------|------|----------------------------|--|-------------------|-----------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 中枢神経、脊髄・脳幹の役割を概説できる。 中枢神経系の分類 脊髄 脳幹の機能 I | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 脳幹、小脳、間脳の役割を概説できる。 脳幹、小脳、間脳 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 大脑の機能を概説できる。学習と記憶を概説できる。 大脑の機能、学習と記憶、脳波、睡眠 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 脳神経の種類と作用を概説できる。 末梢神経:脳神経の機能について | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 脳神経の種類と作用を概説できる。 末梢神経:脳神経の機能について | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 自律神経反射の仕組みを概説できる。 自律神経が関与する反射 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 自律神経反射の仕組みを概説できる。 自律神経が関与する反射 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 筋細胞の構造を概説できる。筋の滑走説を概説できる。 筋の構造と収縮の仕組み、筋収縮、収縮の種類・筋のエネルギー代謝 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 特に、平滑筋・心筋の特徴(閾値など)を概説できる。 筋の疲労、骨格筋・平滑筋・心筋の機能的違い | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 筋と神経のかかわりを概説できる。 運動 I (運動単位と運動ニューロン) | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---------|----------|-------------|--------|-----------|---------------|
| 学 科 | 鍼灸スポーツ学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 生理学Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (4) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 2校舎501教室 |
| 担 当 教 員 | 鈴木 次郎 | 実務経験とその関連資格 | | | |

《授業科目における学習内容》

からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱ(動物生理学)では、神経の仕組みと、筋収縮の仕組み、運動を概説できる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験 100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

東洋療法学校協会編:生理学 第3版
プリント

《授業外における学習方法》

生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。

《履修に当たっての留意点》

生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる科目である

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|--------------|-------------|----------------------|-------------|-------------------|
| 第16回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋と神経のかかわりを概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 運動Ⅱ(シナプス) | | |
| 第17回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋と神経のかかわりを概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 運動Ⅲ(α-γ連関) | | |
| 第18回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋と神経のかかわりを概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 運動Ⅳ(伸長反射のメカニズム) | | |
| 第19回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋と神経のかかわりを概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 運動Ⅴ(伸長反射と誘発筋伝図) | | |
| 第20回 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 色々な反射を概説できる。 | プリント 教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 運動VI:屈曲反射、皮膚反射、長脊髄反射 | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
|-------|------|----------------------------|--|-------------------|-----------------|
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 痛みの分類と性質を概説できる。 感覚 I : 感覚の分類と一般的性質、痛覚 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 痛みのメカニズム、鎮痛の仕組みを概説できる。 感覚 II : 内因性発痛物質、痛みの抑制・鎮痛 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 嗅覚・味覚の仕組みを概説できる。 感覚 III : 味覚の発生・嗅覚の発生 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 聴覚・平衡覚の仕組みを概説できる。 感覚 IV : 聴覚・平衡覚 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 視覚の仕組みを概説できる。 感覚 V : 視角 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 生体の防御作用を概説できる。 生体防御作用 I | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | 生体の防御作用を概説できる。 生体防御作用 I | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | ホメオスタシス・バイオリズムを概説できる。 身体機能の協調 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | ホメオスタシス・バイオリズムを概説できる。 身体機能の協調 | プリント教科書 | 教科書の該当範囲を一読しておく |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定 | まとめ | プリント教科書 | |